

## EV等のモビリティを上手く使える環境づくりWG（充電WG）検討状況について

### ◆WG会議開催

第1回 10月11日（木）13:30～15:30

第2回 11月14日（水）13:30～15:30

### ◆会議の略称

充電WG

### ◆会議の代表者

中村隆司（伊勢商工会議所 環境委員会副委員長）

### ◆検討状況

第1回：

- ・ 今年度の検討内容について確認し、目標についてメンバーで共有した。
- ・ 参画者のうち市外のメンバーについては関連する実績の紹介、地元のメンバーについては当WGに係る意向等について自由に発言いただいた。

第2回：

- ・ 市外のメンバーから当WGに関連する各者の取組事例や事業アイデアについてプレゼンテーションをいただいた。

### ◆主な発言内容

第1回：

#### ○EV等の利用条件について

- ・ EV等のモビリティ等が使いやすい環境を検討するうえで、前提条件等を予め整理することが必要
  - ・ 伊勢市外からEV等で来訪するか
  - ・ 公共交通機関で来訪し市内でEV等を利用するか
  - ・ スペイン村など周辺施設も含めた周遊パターンを含める 等

#### ○補助金利用を含めた費用負担について

- ・ メリットが見えなければ事業者は動きにくいいため、検討を行ううえで、国や県、市の補助の提供可能性や事業者の負担割合などの情報の提示が必要
  - ・ EV・pHVタウン構想などの先進事例における資金負担状況
  - ・ 行政からの補助がない場合の運営費の捻出方法
- ・ 行政の強い意思があると事業者は協力しやすく、それによって事業者の動き方も変わってくる

第2回：

### ○充電設備設置における主な検討事項

- 充電形態（基礎充電、目的地充電、経路充電）
- 課金の是非（急速充電器の6割が有償）
- 課金方法（課金システムの構築されている充電サービス会社（4社）への委託、設置者自身によるもの）
- 決済方法（ICカード、現金、プリペイドカード、ポイントカードなど）等
- 太陽光発電や小水力発電などを蓄電池に貯め、エネルギー制御により電気代を削減する取り組みも検討対象

### ○充電器設置に対する考え方

- 充電器のあるところにEV等に行く、逆に充電器を設置しないとEV等は走らない。
- 道の駅に充電器を設置すると、観光客が増え、滞在時間が長くなる等の効果が実証。
- 普通充電器は20分で8km、1時間で24km走行可能であり、必ずしも急速充電器にこだわる必要はない。
- 伊勢から鳥羽あたりまではEV等で往来可能であるが、観光スポット1か所程度には充電器があった方がよい。
- 充電器の設置されている御在所SAを基準に考えると、内宮まで98km、伊勢志摩スカイラインの展望台や民話の駅蘇民まで各105kmで、安濃SAあたりに1台設置できると訪れやすくなる。

### ○充電設備の活用について

- 充電器に通信モジュールを入れ、データセンターとつなぐことで、充電サービス会社が発行するICカードを通じて利用者認証、課金決済を行える。副次的には利用履歴の管理や利用状況の配信なども可能。
- 他にも、利用者に対して様々なサービスを付与することが可能。
  - 充電スポットと空き状況、施設周辺のレジャー情報をパソコンやスマートフォン、カーナビなどに提供
  - 日常の買い物などでポイントを貯め、観光地における提携施設でポイント利用して観光地にお金を落とすシステム構築
  - 利用者が失効したポイントを伊勢市の環境保全や電気自動車普及、観光復興のために活用するなど、充電で得た課金やポイントを地域に還元する仕組みの作成 等

### ○参画メンバーの充電設備の設置について

- 自社が運営する駐車場に充電器を設置することが前提となる。伊勢市内に1か所保有しているが、公共駐車場の指定管理制度などを活用しながら増やしていくことも可能。（タイムズ24）
- 自社で充電器を設置することに力を入れており、2013年3月までに急速充電器を2,000基設置する目標がある。QC（急速充電器）寄贈プロジェクトを進めており、伊勢市への寄贈も検討可能。（日産自動車）
- 三重県内には急速充電器が13基あり、ほとんどがディーラーに整備。（三菱自動車）
- 国道23号沿いにある関連会社にて、充電設備の設置を検討している。（シンフォニアテク

ノロジー)

- 店舗設置のガイドラインを策定。新店については極力設置、既存店は行政から設置要請がある場合のみ検討する。(イオンリテール)

#### ◆第3回WG

- 地元としての意見をまとめるために、市内のメンバーのみで開催(12/12 予定)